

教職支援室便り（6月号）

令和7年 6月13日（金）

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

教員採用選考試験（第一次試験）始まる

本年度の教員採用選考試験（第一次試験）は、先月5月11日（日）に実施した自治体があるなど、すでに始まっています。宮崎県をはじめ多くの九州各県市では、6月15日（日）に第一次試験が行われます。受験する学生の皆さんには、全力で第一次試験に取り組んでほしいと思います。

なお、九州各県市及び本学の学生の皆さんが受験する自治体の、校種等、採用予定数、第一次試験の内容（概要）について下欄に掲載します。

自治体	校種等	採用予定数	第一次試験の内容（概要）
宮崎県	小学校	200名	筆記試験「教職教養、教科専門」 実技試験「各校種英語受験者：英語リスニング」
	中学校英語	8名	
	高等学校英語	5名	
大分県	小学校	170名	筆記試験「教職教養、一般教養、教科専門」 実技試験「英語リスニング」 小論文試験
	中学校英語	20名	
	高等学校英語	6名	
長崎県	小学校	230名	筆記試験「教職教養、一般教養、教科専門」 実技試験「英語会話テスト」
	中学校英語	15名	
	高等学校英語	13名	
福岡県	小学校	550名	筆記試験「教職教養、一般教養、教科専門」 実技試験「英語リスニング」
	中学校英語	55名	
	高等学校英語	35名	
福岡市	小学校	160名	筆記試験「教職教養、一般教養、教科専門」
	中学校英語	25名	
北九州市	小学校	115名	筆記試験「教職教養、一般教養、教科専門」 実技試験「英語リスニング」
	中学校英語	7名	
鹿児島県	小学校	220名	筆記試験「教職教養、一般教養、教科専門」
	中学校英語	20名	

佐賀県	小学校	200名	筆記試験「教職教養、一般教養、教科専門」
	中学校英語	22名	
熊本県	小学校	140名	筆記試験「教職教養、教科専門」 実技試験「英語リスニング」
	中学校英語	13名	
熊本市	小学校	127名	筆記試験「教職教養、教科専門」 実技試験「英語リスニング」
	中学校英語	12名	
	高等学校英語		
沖縄県	小学校	250名	筆記試験「教職教養、一般教養、教科専門」
	中学校	150名	
愛媛県	中学校英語	20名	筆記試験「教職教養、教科専門」 面接試験
静岡県	中学校	100名	筆記試験「教職教養、一般教養、教科専門」
神奈川県	中学校英語	40名	筆記試験「教職教養、一般教養、教科専門」

第一次試験は、筆記試験を中心に行われますが、その内容には、「教職教養」、「一般教養」、「専門教養（教科専門）」などの分野があります。また、自治体によっては、第一次試験から面接試験、論文試験等を実施するところもあります。参考として、筆記試験の概要を紹介します。

教職教養

教職教養の試験では、教職に対する基礎知識が問われます。具体的には、教育法規、教育方法、教育課程、学習指導要領、教育心理学、教育史、道德教育、人権教育、特別支援教育、インクルーシブ教育、生徒指導、中央教育審議会の答申、文部科学省等の通知文・報告書などの知識です。

一般教養

一般教養の試験では、国語、数学、理科、社会、英語、芸術、体育に関する問題、情報処理に関する問題、受験する自治体に関係する問題など、出題範囲は多岐に及びます。したがって幅広い見識が必要になります。

専門教養

教員の適性の一つとして、「専門性」が重視されています。筆記試験の中でも、専門教養の配点は高く、専門で高得点をマークすることが、合格ラインを突破する基準となります。教科専門は、その科目の知識と学習指導要領、指導法等を問う問題が出されます。

教員採用選考試験を受験する学生の皆さんの心境

教職特別講座では昨年10月から、60コマ以上の演習に取り組んできました。教職教養、専門教養等の筆記試験対策、教育問題に関する集団討論などを通して、学生の皆さんの教職に対する理解は、とても深まってきたと実感しています。いよいよ第一次試験が本格的に始まりますが、彼らはこれまで積み上げてきた力を、十分に発揮できると確信しています。

今回は、学生の皆さんが5月中旬時点で書いた、「現在の心境」について紹介します。

現在の心境としては、正直不安や焦りもありますが、それ以上に講座や教員採用試験への勉強を通して、教職に対する理解が深まったことが良かったと感じています。講座に参加する前には、大学で教職や教育について勉強し、それらについて自分が多くを知っているのかのように勘違いをしている部分もありました。しかし、講座を受講したことで、さらに理解が深まり、自分がまだまだ何も知らなかったことを知れた点が良かったです。教職についてからも、学び続ける教員でありたいと思うきっかけになりました。

これまでの特別講座を振り返ると、講座を通して、教職に対する理解に加えて、自分なりの意見をもてるようになったと感じています。教職を自分事として、現場を想像して考えられるようになったとも言えるかもしれません。講座を受講する前までは、なんとなくこういう回答が求められているのだろうか、というような考え方しかできませんでした。ですが、現在では、しっかりと根拠を持ってなぜ自分がそう思うのか、なぜその問題について考えることが大切かなど、自分の言葉で伝えられるようになったと実感しています。また、他の受講者の方の意見を聞き、様々な角度からの視点も得ることができました。

一次試験まではあと1か月ほどしかありませんが、これまで自分の出来ることは全てやってきたので、それを本番までも継続していきたいと考えています。試験には合否がありますし、もちろん受かりたいし、受かるつもりですが、これまで講座を通して学んできたことは、教員となってからも必ず役立つと考えています。ですので、教員になった自分の姿をモチベーションにしながら、あと少し頑張ろうと思います。引き続きよろしく願いいたします。

曾我先生もお忙しい中、昨年10月から我々受験生のために、一次対策講座を行っていただき、本当にありがとうございました。対策講座を通して、各テーマにおける曾我先生の実際の現場でのお話や過去の事例を伺うことができ、それらと照らし合わせながら、さらに問題を深堀することができたため、非常に知識が定着しやすく、問題意識が高まりました。やはり、一次対策の問題を解くことだけでなく、曾我先生の教職生活における体験談や受講生との全体での意見交換を通して、様々な視点から教職に対する理解を深めることができるという点が、この講座の魅力であると改めて感じました。一次試験に向けて、これまで学習してきたところを振り返りながら、教職教養は満点を取る勢いで臨みたいと思います。大変お世話になりました。

これまでの特別講座を受講し、様々な項目について問題を解き、学び、それに対する自分の考えをまとめてきました。この過程を通じて、自分自身が教職に対してどのような思いを持っているのかが明確になり、ディスカッションでは他の学生の意見を取り入れることで視野も広がりました。また、将来、自分が教師になったときに、どのような人物でありたいか、どのような生徒指導を行いたいか、どのような授業を展開したいかといったことについても深く考える機会となりました。そして、学校の役割や教師の果たすべき役割についても、改めて考えさせられました。一次試験まではあと1か月となりましたが、学んだことを活かしながら、合格を目指して引き続き勉強に励んでいきたいと考えています。

道徳の教科化に思う！（シリーズ97）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について連載しています。今回は、令和6年度3月号からスタートしたテーマ「道徳科における教材開発の在り方を考える」の4として、教材「これだけでよいのか」の発問構成例（導入～展開前段）の展開前段を掲載します。

<展開前段>

○・・・予想される児童の反応 ◇・・・指導上の留意点 補・・・補助発問

資料「これだけでよいのか」を読んで話し合う。

Q. 良夫はどのような問題を考えていたのでしょうか。心に残ったところ、考えてみたいところを発表してください。

- 良夫が、「あいさつのことでよくほめられるけど、6年生としてこれだけでよいのだろうか。」と考えているところ。
- 良夫が、道に迷っている観光客の人たちに出会ったところ。
- 良夫が、道に迷っている観光客の人たちに近づいて行ったところ。
- 校長先生が手紙を読まれたところ。
- 観光客の人に道を尋ねられて、照二がずっと前に進み出たところ。
- ◇ 児童には、主人公の「これだけでよいのか」という問題意識を共有させながら、考えてみたい場面を自由に発表させる。教師としては、「これだけでよいのかと考える場面」、「道に迷っている観光客に出会った場面」、「校長先生が手紙を読まれる場面」、「照二が前に進み出る場面」などが児童から出されると予想するが、もし出ない場合は、教師からも話し合いたい場面を提案するようにする。

Q1. 良夫の「これだけでよいのか」の言葉の中には、どんな気持ちがあるのでしょうか。

- あいさつではほめられるけど、それだけでよいのか。
- これまであいさつはできていたけど、それ以上のことはできなかった。
- 何か自分に足りないものがある。
- ◇ あいさつも思いやりの行為ではあるが、良夫の心の中には困っている人（観光客等）に出会ったときの後悔した思いがあり、何か満たされない気持ちでいることを捉えさせたい。また児童の反応（あいさつ以上のことはできなかった等）によっては、補助発問として「そうであれば、思いやりのある行為を実行すればよかったのではないですか。」と問い、次の発問の布石としたい。

Q2. 観光客の人たちが道に迷っていると気付いたとき、良夫はどんな気持ちだったでしょう。

- 道に迷っているのか。道を教えてあげようかな。助けてあげようかな。
- 助けてあげたいけど……。恥ずかしいから、黙って通り過ぎようかな。
- ソフトボールの練習にも遅刻するし、どうすればよいか迷う。
- 補. 観光客の人たちは困っているのですから、進んで助けてあげればよいのではないですか。
- 助けた方がよいのは分かっているけど、なかなかできないと思う。
- 自分も良夫ように迷っていたと思う。
- やはり進んで助けてあげる方がよい。
- ◇ 児童から良夫の葛藤する気持ちを引き出す中で、補助発問「観光客の人たちは困っているのですから、進んで助けてあげればよいのではないですか。」を投げかけ、児童が自分との関わりの中で考えるよう導く。そして徐々に、より高い価値観に近づいていく良夫について話し合い、次の発問へと導く。

補. どんな気持ちや考えが、迷っていた良夫を突き動かしたのでしょうか。

- またこのまま何もしなかったら、あとで後悔する。
- 人のためになることをすると、自分の心が満たされる。
- 困っている人の立場になったら、自然に体が動いていた。どうにかしてあげたかった。

◇ この補助発問は、ねらいとする価値につながるものであり、個人思考、グループ思考、全体思考を通して話し合いたい。打算的な考え方ではなく、困っている人の立場にも立ちながら、より高い価値観に気付いた良夫を捉えさせる。

Q 3. 校長先生が手紙を読まれたとき、良夫はどんな気持ちで聞いていたでしょう。

- 観光客の人たちに喜んでもらってよかった。
- これまでできなかったことが実行できてよかった。
- 自分のしたことは、観光客の人たちにとってとても助けになったんだ。
- 相手のことを考えて、心から行動することは大切だな。
- 自分が考えていた問題が解けたような気がする。すっきりした。
- ◇ 教師の方で再度観光客からの手紙を読み上げ、その感動が児童に伝わるようにする。そして、これまでよりひとつ成長した良夫を浮き彫りにし、より高い価値観に気付いたことを話し合う。また、相手の置かれている状況を理解し、判断して行動する大切さについても触れるようにする。

補. すっと前に進み出た照二は、どんな気持ちだったのでしょうか。

- 良夫の考えていたことがよく分かった。
- 自分も相手のことを考えて行動しよう。
- 自分も良夫のようにありたい。
- ◇ 良夫に感化されて、照二もより高い価値観に気付いたことを話し合い、ねらいとする価値を把握させる。